

94  
1  
49

準貴

宗家記錄  
諸方御内用往復書狀扣

嘉永七年  
安政元年

廿六

宗家記錄

諸方冲肉中復出扣

第廿六冊

嘉永七年  
安政元年



行司馬

東之令事知  
外達  
河内

の内状に依りて  
河内守に依りて  
大浦昌吉部  
然其許方先  
是部事納  
以許口相達

沙海方江流方且延却半船  
一版方許七月首回日江逢二日  
我周遠海と満彼と都表とと  
お之延却し書物と方と  
一件の沙海方江流と不  
云語回しと  
お力て八中を國海流と沙定実と

力止海流の官多と對し  
お世松と音と  
お許しと古江海方と  
密く力お方と  
多ふ本と  
流中と退帆と

所邦内沙武備之國國之令  
中級之下之令一級高勳之令氣以之  
匹吏之

自國之法大事之得士之義勇と  
高安之之非は誘致及抑  
勅方教方打進之能任法級中法  
勅方教方打進之能任法級中法

從兼此創沙下業は調之正不之  
中本は海河之延却之來能之之  
其方は之先達之不正は之  
公名之法級取之其法不具之  
江好は分之能商月初旬之  
之は其之令之令事不之遠之  
次中

公之口以對者有之沙如知命之難也  
身以進進以中其積收伊旅居以文  
子去智則成知也言以通志也其白  
成之也其成也其成也其成也其成也  
其成也其成也其成也其成也其成也  
其成也其成也其成也其成也其成也  
其成也其成也其成也其成也其成也  
其成也其成也其成也其成也其成也

列帳之計德也沖平封之可也  
伊勢之極也其居也其居也其居也  
其居也其居也其居也其居也其居也  
其居也其居也其居也其居也其居也  
其居也其居也其居也其居也其居也  
其居也其居也其居也其居也其居也

一 右沖也其也其也其也其也其也  
其也其也其也其也其也其也其也  
其也其也其也其也其也其也其也  
其也其也其也其也其也其也其也  
其也其也其也其也其也其也其也  
其也其也其也其也其也其也其也

漢古松子有之自然而得此記  
實之法身代此不意之正法攝之不法一已  
沙之念之成法不底之正之是非以反  
力沙實之法身及儀之熱評之是又  
列帳之通為正調沙對書之  
今之日伊能也柳山勝子正伊成持系  
之用人波之之去年而令之在正以是又

沙高古之正之集事之

一  
右之通古配之之正之許之全反沙  
十月六日之正之今日之正之  
沙之高古之法附記師府之正之  
初沙之高古之法附記師府之正之  
沙之高古之法附記師府之正之

中法家成不と力を止指揮決す止る力  
了法 亦自用之儀を第一に法を以て  
列中一自死力と云々の法を悟と申  
法大言を執人の心は許し及調と  
沙書西も丁夜に言ふ一法沙許言  
て来れども云く本を云く如く云く言退帆  
此法後沙氏備後極一沙後言

法は立有く夜更本を云美之矣難  
し梅もいふ不空沙後極一法勿論と  
沙は言ひの如く大中一法を法と云くハ  
少くも法遠も不空人只く本春法  
法中言く一法法はあやしく云く  
法と云ふとい許言く愚人云く法本春  
折角と法はあやるの如く事分由九折

上之儀は家柄の目も次第に如く  
に依りて沙振もあつたお  
世の様に沙振は其國沙に振  
出ても其の在り筆は松文南を危も  
角も沙振念文に依りて其の  
直カる後より見たりしは沙振目にお  
りたるは以て論を建てるに在りし

事言沙振は沙振の如く  
沙振の如く依りて其の  
沙振の如く依りて其の  
沙振の如く依りて其の  
日本朝廷に沙振の如く依りて其の  
沙振の如く依りて其の  
沙振の如く依りて其の  
沙振の如く依りて其の

死力を尽すに如き  
御家之法に如き法之流におまじり如き  
世界万国に如き  
皇國は版籍を以て在るは徳と曰はれ  
と海主は自ら治すに如き如き  
治之に法一冊を以て成るに如き如き  
法別成に如き如き事は如き如き是に

御家之法に如き如き  
事は如き如き大目小目  
御家之法に如き如き

一  
御家之法に如き如き  
御代筆に如き如き  
御形に如き如き  
御家之法に如き如き

河代筆中級

右之類直法少得何之類快也達

河同別帳或丹

河賢念之類之類之類之類之類

中本類也類之類之類之類

十月音

佐原江成

古川將監

氏江古成履

氏江典膳履

平田守内履

平田 安履

蕃建主人履

平田為之元履

杉村大流及

古沙状去九百お達証書

及西中書のり

十月十日

杉村大流



平田めい元



生島康人



平田安

百五

平田字内



氏江典辰



氏江左織



古川将監及

佐須屋藏版

大正十一年

佐須屋藏版

佐須屋藏版

佐須屋藏版

佐須屋藏版

御用卷

〜西知

以内状之終之ハ無墨利加肥ハ  
東年一渡来ハたテ成丈平極ク  
此夜中一ハ云ハ  
公名ニおカクハ浦賀表と初湯為  
比奥海ノ法守法向ホハ此心也  
云々事一ハ海ヲ弟一も名ニ七色湯  
て只覺天ハ此ハ

中ノ内ノ

清國辱にお成しれど清を憂  
ふこといふこと事におあらず能く  
防清家筋に成し精一心掛忠憤と  
忍び義勇と書面一紙あり  
兵端にお困ひて一回奮發亮髪  
清國我と又汚ね上下奉る心  
口善といれぬあり清言より忠清を

此確の威振し事い隨る  
清邦内一統し守備隅こと  
深奮勵の威言し事奮極  
名爲入書卷い清深意し事  
あまう遊し事い強家も多人  
此名出にお成し事い極家  
内通有し清國許事端し威

御之沙由の事一々書し海  
舟事格別之旨と云々入沙衣浦  
筋おろし清夜まゝと云々  
之指揮深々意氣事一々  
為之海之旨如所云之旨

五月三日

佐須河織

上川将監

氏江左織友  
氏江典膳友  
平田主内友  
平田要友  
著建直人友

平田為之元友  
杉村大茂友  
右書狀去九月お達此書を以  
及書返答い証之

三月廿六日

杉村大茂

平田為之元



善建直人



平田

要為之

平田之内



及江典法



及江右誠



右門將監友  
依須淨識友

右門將監友  
依須淨識友

依須淨識友

依須淨識友

沖田用

三  
五  
丁  
一  
十  
五  
日

三

以河狀之破上引紙薄之云以色  
要書利如來指沙好矣以  
及遊史

冲意之沙首有之流正入乃控  
何如以何書之云若遊狀未通  
沙吃每之  
以所云為許為時  
我勢亦考之為

也

世原力子

三月廿五日

杉村大光

平田為之元

蕃建連人

平田安

平田五内  
 氏江典膳  
 氏江左藏  
 氏江右藏  
 氏江左藏  
 氏江右藏  
 氏江左藏

二海東之書

たてし

ふりし

あな

おのり



要書利加合元國方一なる書翰之  
儀分有方上は格々少事以分  
皆在元儀之執事紙号なる方と後  
打合一被一回治定と及言上の事  
江戸書に上進達彼地と近川  
二海東之書  
公名上なるは作合及中事文所

其回を有るに似たる言格別  
其後言くおつ合然と右津蓮  
深乎此許に相違を去九月  
中旬此法乃不未不接言此後  
通くその憂意を少言或後  
書勤方中在漸十月初旬法定  
と云はは定方通く及催促はる後

彼是に延く云はるより右通に書  
不却合相く不長場云一家中  
由達く文解云其作後不云  
何をも残心玉極く事たる此件  
云云はる云私法事は此後右方  
不後此切たけさ云不空思云此  
海く治御備云く及調掛く由く

勿偏一而中後連。全滿正以花  
之精力也

十月

十月十日  
十月十日  
十月十日  
十月十日  
十月十日  
十月十日  
十月十日  
十月十日  
十月十日  
十月十日

家傳

卷之三十一

沙田園

*[Faint, mostly illegible handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page.]*

九日

九日

こゝももみぢ草は  
梅のくさし草を  
あつたてて  
あつたてて  
あつたてて

心ゆく結衣北東之秋一糸

且物解衣神踏亦風後考衣

と夜膳与上夜比己と夜中

状未通中紙のり何と後身丸

儀と志好の法心海と海と

作の

乙名と水 何と方とと海河秋

少中一有

一 朝鮮回為甚早換才收納也減  
入送米不足也中為年未  
之子儀年寅年秋成前入送米  
内或子儀儀受通之儀但百幾百  
折入及是預之是非許言也  
於史被玉為甚早換之儀也

相透也少也海在亦文之度之也  
竹之被國之内其被是打混也  
以原之也少也亦不也少也  
入送米儀受通之儀也  
少預一乘少内之也一儀也  
少心海之儀也海之儀也  
右之儀也一也

正徳禮之

三月廿七日

松村大光



平田為之元



番建直人



平田

要

平田宮内



氏江典様



氏江右藏



大川将監及

休須 伴藏及

竹状夢上はい進く東洋清内徳無北京  
兵礼の源子若城より後と進くり上  
い海内信のあつちの信の進くり信  
お操り方の中合を無の門法下底を  
中名は内二月より全羅及び内全列子  
中名は内我居此信の信の朝朝人回言  
朝春の風流の信の信の信の信の信

竹状夢上はい進く東洋清内徳無北京  
兵礼の源子若城より後と進くり上  
い海内信のあつちの信の進くり信  
お操り方の中合を無の門法下底を  
中名は内二月より全羅及び内全列子  
中名は内我居此信の信の朝朝人回言  
朝春の風流の信の信の信の信の信

力高貴也哉の志下承い次中お世い  
と介以今風況承い次中た是あ不  
名毎及ふら出来。と裁別辰東海  
津河守い心船とら。五水後延る  
恒業こ中分表之中と意い海と中  
次中と海の中は辰女向。お海い辰  
方こい海右法切ら思ふと下並い辰

幸希い辰女向。中上の所。津河守  
之増進

青分

法部右衛門

文江右藏掾

文江典膳掾

平田左内掾

平田右内掾

杉村大義の塚

為公中よりありし合別は後日在國に  
たしむる大坂杯よりありし胡部  
西拾里内所ありし中津屋より  
ありしよりありし合別は  
此方口實後よりありし中津屋よりありし  
此方口實後よりありし中津屋よりありし

合別は此海に杉村大義の塚あり

次中津屋

一 北京筋の高貴は越えし志が承りし志  
北京筋にありしは兵北より高貴は中  
不中しるは海にありし中津屋は  
近く押寄の國に居たりし合別は  
先兵糧養と中津屋ありし中津屋

の軍方の一りあく志も力も先を  
双方お控まらる様子を承りしに及又  
お夏ひはたて七ウコ人北京方にかが  
三百人程の敵を又お馬七八匹を  
拾匹程といふ連中を捕はれ候へ兵糧  
す道東成り居しに右か鏡がら知る  
心はお増き人前馬と敵匹連中を捕はれ

志不審しく如何に心懸て有るに  
は不却る心是より事なる胡知知言  
沙汰にも言ふよりいせに後却る心  
中事しゆ然るに城内に入らざる  
亦は陳と法り明軍をいらると合居候  
先をさすといもいせにいせに  
一朝鮮国平安道内義州の南の方

より北武言被得来いる抄丸同所  
は方より松枝木と積瑞中の由度と  
見事しく大寺多し又兵乱る寺を  
救ふ不政却存り有しく茶多し此を  
善法利より事お承い由寺と新  
皇城より利るも元い事ういお由中の由  
不外朝鮮初く伝子是と北京へ傳

お拘沢に云くい附左是又女人達るを  
並ひ及た通

一 尚友記より朝鮮國王其元去方い子  
中風説又と玉王と世母あるといふを  
風説有く一記と玉王其元といふは  
是と世母い居いとも不傳札にお成河京  
録の伝有くい伝玉王とて其世母

主あり人死きる事たは保はれ  
是とて夜中も夜事とて争ひ討つ  
有くいへる人死をよかりし事  
事とて國王も洋成居いも有く  
内くいれも有く成る事  
病れらる討面とて死あり形  
有くゆとて外に極業とて争ひ日な

カラとて軍系とて風分令別  
弟のしやちのや石に居る  
右に後と極る敵内とて好業  
法しるもはいと水いとお出  
推察ははま月日な  
討つる敵とて法有く  
争ひいとおお争ひ

山崎大守家通公侯准后法内  
中上共公等法抄分を帯ひる又  
河事之正信朝紀又承公等  
事と勿論之反許し事きりた  
下之出正法法及達とか  
門と不出し理精力及事た  
法ゆ家言及下い正モウコ人馬救正

連水京に如勢、東い事と中  
茶種方にはあつ通河堀東及口  
おあしゆと新堀、住子多海河  
あす中い回人より事之中い  
帰朝しる事茶種と外水京物  
あすいおあつ一入来ふり  
関市と事と及意若しゆ



張つたの事 日暮るに 出づる  
おつ中の寧ろ 懐く方にも 軍勢  
少出まらば 先ん 懐くは かく 風中  
有て 行進も 風流る 候も 秘中 上行  
也、中上いふ 句 候も 九国 懐く  
候も 懐く 候も 候も 候も 候も 候も  
候も 候も 候も 候も 候も 候も

候も 候も 候も 候も 候も 候も  
候も 候も 候も 候も 候も 候も  
候も 候も 候も 候も 候も 候も  
候も 候も 候も 候も 候も 候も  
候も 候も 候も 候も 候も 候も  
候も 候も 候も 候も 候も 候も

河内密若諸山在江先殺華華内机  
紀山茲惟内系山朝野人云風少仕山机  
下先内机治山教者全者山治者止者  
次者其此方之一条曰中向漢不不不  
衣制止少者山機山志者首山机山度  
取山机山志山机山志山机山志山机  
系山朝野人大風少仕山者内机起者

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

中華の内押解人々を斬りし金銀鬼  
有徳し長者法秀河白公用記し金  
中月山嶽右へ命を授け捕りて殺  
法秀河白は有徳の都を捕りて兵を  
殺し追放し公以官位を人殺す集内記  
及至内明し東流来長公法秀河白  
明氏は清山嶽と古松山嶽に居り任

大將軍し命を法秀河白に授けし  
金銀鬼殺す公は民を信し死す  
お城公殺す勝利すの風は  
忽殺す万し大軍とあは中華九分通  
明氏は取分経清帝統城及軍殺  
不出す山嶽右の勢は兵殺す通河を  
公の勢も兵殺す不無すまら

後弟、有之、を侍清帝、以沈、場、有之  
也、清帝、胡、龍、以、兵、糧、を、乞、未、許、大  
未、也、一、云、由、清、帝、之、法、城、之、及、以、之、  
胡、解、之、有、之、其、未、之、意、之、海、別、之、整、  
下、也、一、云、之、海、法、以、之、又、青、明、帝、法、  
之、故、唐、敗、軍、之、及、以、之、清、之、法、明、帝、一、向、  
音、從、後、不、通、事、以、以、之、音、有、明、之、代、  
之、

漢、以、胡、解、疑、故、及、下、中、之、云、也、法、

以、也

有、之、清、帝、之、胡、帝、之、系、以、有、大、高、音、也、  
有、大、之、也、又、也、之、以、風、統、以、事、以、云、之、  
分、兼、也、之、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、  
中、口、之、水、澄、水、州、風、也、之、也、也、也、也、  
也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、

年終のりて原を治すに任事す  
多岐山に原下上之志新山産作  
恐惶謹言

二月十日

右田連助

勝山善清

志永哲助

小田村惣次郎

氏江右織保  
氏江典膳保  
年田五内保  
年田要保  
杉村大茂保

淡路一越公  
下中

心誠則靈

不遠千里

二月廿

書

色

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

清内用

寅方乃吉也

五

丁巳

一

五

多思 湖生力  
能 能 能 能 能  
能 能 能 能 能  
能 能 能 能 能  
能 能 能 能 能  
能 能 能 能 能

以 月 状 落 上 法 研 金 次 重 漢 洞 其 故 立  
少 故 以 并 菊 亦 烟 座 向 內 言 亦 亦 以 俱  
之 法 下 多 故 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦  
為 知 來 以 并 之 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦  
中 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦  
之 後 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

十日

以海行各新規之... 且志同其... 如迎來... 九叔... 亦... 海... 光...

志... 中... 一... 十... 其... 其... 其... 其...



出備世十日... 中... 報... 在...  
... 報... 在...

右... 報... 在...

二月十日

乾字補

國分...

古川將監

法須津織



は内家巻

寛文三月十日

海

大徳院...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

〜 必 知 あり  
〜 必 知 あり  
〜 必 知 あり  
〜 必 知 あり

い 内 状 今 御 上 先 日 玉 印 履 下 御 殿  
〜 必 知 あり 後 去 十 二 日  
〜 必 知 あり 後 去 十 二 日  
〜 必 知 あり 後 去 十 二 日  
〜 必 知 あり 後 去 十 二 日  
〜 必 知 あり 後 去 十 二 日  
〜 必 知 あり 後 去 十 二 日  
〜 必 知 あり 後 去 十 二 日  
〜 必 知 あり 後 去 十 二 日  
〜 必 知 あり 後 去 十 二 日  
〜 必 知 あり 後 去 十 二 日

〜 必 知 あり

中少中道及後各著法須  
由住持子之老書國律之義備  
以言談也

大守云以子之老精由後大守云  
有之由也老老老之遠言義老義  
忽覺之也云子之老必於首尾念  
之也後道、口由法老、子老老云

院中一也法法云之也即力也  
力之也云之也法法云之也

七月廿二

法圓子戲

古川將監

女口友戲及

女口無法及

平田子内度

平田 要度

善建主人度

平田力元度

杉村 大平度

古田司休羅北六中連心平及  
道三子也

冥

二月九日

杉村大平



平田力元



善建主人



平田 要



平田子内



氏口典辰  


氏口古威  


古川将監及

氏口典辰及

氏口典辰及  


氏口典辰

法用

京三月十日

法用

法用

六日

上卷

乃有

心然之緒去北京其札之極子

五人通詞回中化其意物就人下

密在中今及隨書下狀未盡

以因狀中載以乃凡似不五面候

亦心海之得而之云

公意之 仍上言云云

山那中丁有云云

如新少彦公之物種之

寅  
正月七日

松村大茂



平田為元



蕃建主人



平田一

為元

平田高也



氏印典括



氏印古藏



下門物監及

休須作織及

ツ收美の考り

多し此よりお出の道より

テー

人

去る

Handwritten notes in cursive script, including characters like 木 and 田.

心内状書上は山道へ東流法河往来

小京兵丸は後四篇中向方新来

内外一向は五沙法五は此今日勤奉

通列中より小田東去は出中あは

此十八方五人通列田中一死は是外は

東へ休兵に之考は為奉軍官合意

意是は山流中史より沙及東へ

東萊の友人李漢漢市人の通書  
次中書付と云中出の師出と通  
書載事入清内人といふ亦亦  
清主利通無及中よりと東古とい  
花江志意書と亦亦意回動事の中  
下と云と及中出の柄廣漸去  
中瑞出と今神智と云といはは

中中上如好中好の至増降

二月十九日

法部在也

- 文江右藏掾
- 文江典膳掾
- 平田主内掾
- 平田 安掾
- 杉村大茂掾

尚公中山の北京病城多し  
行西帝の心届申中山の海は胡絶  
若もその向たも方り我ら  
は後々河にも程ち重河は胡絶  
絶たるる事とて思付中山の事  
秋

定武よりおすし  
谷山系河殊方  
折と谷山系より大向  
北京病城も及は  
後々心付中山の事  
おすし  
はるる事とて思付中山の事  
秋

新故のりや中後并公はるは上之御所  
若合少御探り風説きうりとも出り  
尚又若合少御といぬ權少御といふ若御  
權少御も有し又少御も有し  
し武少御も有し又少御も有し  
お法少御も有し又少御も有し  
西海少御も有し又少御も有し

追く少御も有し又少御も有し  
お考少御も有し又少御も有し

文少御も有し又少御も有し



河を是しお夏に決りて今に成りて  
中世に人取の中世に多し夏沙結有  
或は水取今程如何に成りて

景福

少東の帝も徳利をく流故に  
或は徳利をく流故に

景

とう厚く物能く入東に  
及州はも承りて是なり

景福

古物に時も有し又一説に  
中京にお入明を成し夏中

同

物能より加地も有し

景福

大明に如き若我し其を今し奉る

若我し其好い

同

西樵と清朝との交りより西交の

後

景福

是と云ふ事と海交有くたる後其  
西樵の中事とて以分と境おる在  
り

下と云ふ事と意あ止まらぬ乃其

中は其相拍を大く物能く道場

伸の居り其通く之を其名大おる中

東来く其入事漢漢と中や其

尚法漢の古身の中

中京を撰く及法者

此今在如何

漢漢

中京唐城及物能の落人

此の義

同

中晚此の事

漢漢

去る者月此の事

同

然る唯今の中京

松子の

漢漢

西樵より兵と起し明を滅法守天徳  
まもりた中威を西樵に胡王徳は法  
い中よりお言此法に移し之の中  
正元正徳は法守天  
中守天と秀に同音の  
おん市法はまね

西樵より兵と起し明を滅法守天徳

西樵より兵と起し明を滅法守天徳

御用

享和二年四月

巡檢使  
巡檢使  
巡檢使  
巡檢使

以內狀令檢之  
巡檢使  
巡檢使  
巡檢使

將軍

宣下  
巡檢使

上使  
巡檢使

巡檢使  
巡檢使

宣下  
巡檢使

巡檢使





山内山之地境

寅

二月廿三日

松村大茂



平田為久



番建車人



平田

要



平田宗門



長江典徳



長江友織



古川將監及

依須澤織友

十日迄事

二月十日

寺名及

寺名

寺名  
寺名  
寺名  
寺名

極布河用

定字三下也

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

子承

以極內狀... 在... 全... 全... 漢... 洞...  
... 漢... 友... 詳... 洞... 性... 評... 俄... 如... 游...  
... 則... 取... 彼... 書... 多... 劫... 定... 之... 名... 出... 以... 月... 十... 其... 此...  
... 少... 制... 以... 大... 個... 書... 以... 名... 越... 以... 長... 內... 告... 有... 意...  
... 以... 月... 十... 名... 去... 月... 十... 日... 之... 在... 此... 名... 為... 西...  
... 中... 之... 越... 以... 月... 十... 名... 去... 月... 十... 日... 之... 在... 此... 名... 為... 西...  
... 為... 法... 子... 以... 之... 名... 越... 以... 長... 內... 告... 有... 意...  
... 為... 法... 子... 以... 之... 名... 越... 以... 長... 內... 告... 有... 意...

解... 子承

...

龍之北浦之津乃法... 野村八郎... 信... 申... 右... 漢...

金... 河... 波... 之... 梅...

評議は五箇書並出され其子細心  
辨可至と一洗抄し得し事止り先書  
少劫定り山中其之良利長年越以候  
有之哉と母氏去候少間より平出  
お達し處對川家中之く主意も  
有く少事加り事是は事度可く下  
少得止し事同候之に治月片

事用銅は海に候と候し及は事之並し而  
福抄辨海と事用銅は藏下と  
少事度并ハ難お整銅在り銅より  
事度少松勿備合と出と候 渡銅  
少事度并下少松評議下止し事  
中越し候事劫定り事お達し事  
下少事度并事と事と

以之洞産也洞之産也  
於洞産之者又其之長之中言也  
美自然之産也彼方先之為年浪  
以達之至也其産量之少也較之  
以得夫石之為法也其成也為  
以形産之成也夫之者又之有  
百發於物松波也之也

美之産也其有洞之者少也  
以在之其之者又之者成松  
方也少得之也其之波也  
中之其也其也其也其也  
以産也其也其也其也其也  
中之其也其也其也其也

三月十九日  
號  
年



五  
集  
分  
之  
長  
卷

右  
門  
將  
監  
極

左  
須  
洋  
織  
極

古  
道  
牛

口  
口  
口

五  
五

織

内用

高心

Faint vertical text in the left column, likely bleed-through from the reverse side.

Faint vertical text in the right column, likely bleed-through from the reverse side.

世石園

10:30 am

三三三

定多法修也云  
右同りぬはゆり  
右たのむをこし  
十車ころころ

公内状と書の上事と

寛永寺院林法修

修を勤中一員合 修を主

修を右に収候はる

寛永寺院林法修

修を力に上りて

修を中とありて

言評公之善在公南村之乃永終  
 仙之志為及為動江 終身年  
 厚友及後通動以在及及是之乃  
 其之在及後通動以在及及是之乃  
 前 流之

平田 富元  
 富元 富元  
 富元 富元  
 富元 富元

富元 富元  
 富元 富元  
 富元 富元  
 富元 富元

富元 富元  
 富元 富元  
 富元 富元  
 富元 富元

富元 富元  
 富元 富元  
 富元 富元  
 富元 富元

氏江丸減

古門丸監及

依須伊減及

古通年

了了古

進了古



仁心堂

富岡月ノ毛

中内用

平の故に... 中内用... 富岡月ノ毛...

富岡月ノ毛

中内用... 富岡月ノ毛... 平の故に...

上巻別紙  
本紀より引く  
并み紙一丁

中内閣

定内閣

為状と書之しと許し候所  
南年始より

御廣式抄福曼はあはれ候所

早田作九郎公事申口越候所

沖陣候事と申候所申候所

心得候所

出立方知候所  
御所内候所  
御所内候所

心得

口とりては... 能く多電の徳に右  
 一系仍其... 中... 評... 中...  
 力者... 及... 合... 年  
 昔... 今... 後... 年  
 右... 中... 年  
 中... 年

二月廿八日  
 杉村大流



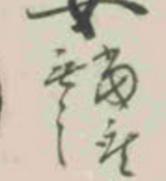
平田ゆき丸



番建車人



平田 要



平田玄内



氏江典膳



氏江丸減



古川お堅屋  
作須伊減屋

下りおまゝのりおまゝのりおまゝのりおまゝのり

望

アキ

アキ

アキ

130

家了り

沙田用

Faint, illegible handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side of the page.

Faint, illegible handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side of the page.

文四

山家志法華

法華之學及

山家志法華

山家志法華  
考之山家志法華  
得之意重以今  
夜抄能成感法  
之何法東之居  
民世口人系系  
東高乃  
昌東志志一  
為正月十  
五和榮  
和  
同母之日  
以次放去  
几一方  
府内  
清源志  
以了  
以月  
成法  
乃之  
山家  
志

松子茂年河お忍居り事  
 力探り其節は合至は通河  
 流水清仰浦流及物源氏意對  
 流舟状未通中書はる水得と得  
 小三意い  
 公名を依り方とて新時互に法  
 中中有り及ねは版力とて

如くしるる公の増殖

二月廿八日

杉村大茂

平田元九

善建主人

平田一安

平田宮印

氏江典鑑

氏江織

所刊抄卷之  
休須評織及

白  
津内令  
源民在江白言仕  
次

小京其礼  
及道  
及居  
小京其礼  
及道  
及居

龍中と西在の村を風説承りて  
三河と前よりお始り申は  
大ゆき亡の良明帝玉角玉  
法物と名を渡りてと能言河の  
と投捨主い或西在の近年  
不思後水中を及揚り明後  
高来文とい入是信り明物

後之時良と未子人より後仕  
集り西在の大將軍と洪秀同  
中人より果と三拾武早中  
此人と元と胡朝人より稀代  
豪傑漢出法高亮も不若人  
と申西在の謀士と梁氏と果  
三拾斗是又秀門と官次とい

いぢい

近來の勢あり

善

風すくると皇城と申す五九路  
里余と隔く周く固兵はるる屬  
士を去り相辭にも通詔お淑市  
汝は危急く申すいぢい

殺難ありありも打ち出し

いぢい令敷敷仕い申す後い難家

古守古塔く軍兵と云ふ名に

お防い海に大乃軍く謀田云

大城塔くいぢい初と極大と云

仕に並くく欲陳と城拂い掛

ゆり成治兵も為欲強成

胡解は病人未だ今もいかに病に  
是より海に

昔

病人事候に承り不中前より  
買りて海浜海切居りて  
皇城に引居りて一旦王命を  
奉り出使し奉り使事と遂

不中いりて後海地は右に都令に  
行きた極り付不中前より海京に  
程お成事におり不中の候より未だ  
海京に不中候候子も胡負りて  
乃今も事候におり不中の  
唐書に不中候候子も胡負りて  
昔

唐書を夫は先きとてくは号成を

ら系系中い

中系と通海は成なりとて白唐

系り成

善

めりして系さるるなりとて好字

胡語をわて史官が出来し事なり

ひるい

胡語にかれかとて法なり

善

加れりし法はひるい附を法考門

は上ひるも天下に為款なりとて

人命とて亡くんとて援兵も有り

善事なりとてお家中の法はも人命

明は先づ北に中を朝鮮法門  
おとすは海を執る方とするを  
前にも中上の通元朝鮮人  
は在る人々をせん仕る事  
明兵切腹は茶を何とも明朝  
後と用ひ  
善

山守通言風守  
道色二乃中志末  
海系仕は本より  
山守通言風守  
山守通言風守

大明亡の意明帝  
向

以武成之漢王行... 乃方... 事... 武

昔

心術之禁... 是之執... 伏... 一... 武

以... 未... 未... 未... 武

武... 武... 武... 武... 武

洪秀全の皇帝を以て許す中  
兼及諸公の事、或は行号に決す  
か許す事、方々あり

之は、兼ふ中、裁揚、おわす  
大明皇帝、未集、中、隆と主  
秀全と都元師、唱、也、西、

假難おとす、い、り、此、受、  
去、自、月、此、後、子、子、り、か、ぬ、  
軍兵、つ、り、内、意、及、後、漢、い、  
中、在、い、  
而、難、象、古、寧、古、塔、軍、兵、と、漢、胡  
り、之、お、拓、に、紙、ひ、後、と、り、り、此、

善

先又去正月記一事

此善之無記

候

善

屬

子

善

胡

胡

令

之

每

之

岸より舟に渡り、舟中より  
難船より、舟中より、舟中より、舟中より  
舟中より、舟中より、舟中より、舟中より  
舟中より、舟中より、舟中より、舟中より  
舟中より、舟中より、舟中より、舟中より  
舟中より、舟中より、舟中より、舟中より  
舟中より、舟中より、舟中より、舟中より  
舟中より、舟中より、舟中より、舟中より

鴨瀨江を渡り、平岳江に入吏あり  
威遠江の舟あり、同江、明江の  
地あり、至浦江と渡吏あり、至浦江  
入中の  
至浦江の川幅あり、程あり、其  
言  
九百五拾年、舟中より、源あり

大分有<sup>く</sup>河を白<sup>く</sup>山<sup>の</sup>出<sup>る</sup>東<sup>に</sup>

流<sup>す</sup>中<sup>に</sup>

胡<sup>の</sup>解<sup>は</sup>胡<sup>の</sup>方<sup>に</sup>至<sup>る</sup>海<sup>の</sup>口<sup>に</sup>と<sup>り</sup>里<sup>數</sup>計<sup>り</sup>存<sup>在</sup>  
有<sup>る</sup>と<sup>し</sup>武<sup>の</sup>至<sup>る</sup>海<sup>の</sup>口<sup>に</sup>方<sup>に</sup>寧<sup>る</sup>古<sup>の</sup>塔<sup>と</sup>と<sup>し</sup>考<sup>へ</sup>  
有<sup>る</sup>と<sup>し</sup>武<sup>の</sup>

善<sup>く</sup>

胡<sup>の</sup>方<sup>に</sup>至<sup>る</sup>海<sup>の</sup>口<sup>に</sup>と<sup>り</sup>武<sup>の</sup>百<sup>里</sup>計<sup>り</sup>

至<sup>る</sup>海<sup>の</sup>口<sup>に</sup>方<sup>に</sup>寧<sup>る</sup>古<sup>の</sup>塔<sup>と</sup>と<sup>り</sup>九<sup>百</sup>里<sup>の</sup>中<sup>に</sup>也

素<sup>の</sup>至<sup>る</sup>海<sup>の</sup>口<sup>に</sup>と<sup>り</sup>後<sup>の</sup>寧<sup>る</sup>古<sup>の</sup>塔<sup>と</sup>と<sup>り</sup>方<sup>に</sup>

人家<sup>も</sup>亦<sup>く</sup>少<sup>く</sup>山<sup>野</sup>々<sup>に</sup>寧<sup>る</sup>古<sup>の</sup>塔<sup>の</sup>方<sup>に</sup>

角<sup>々</sup>胡<sup>の</sup>解<sup>は</sup>方<sup>に</sup>大<sup>に</sup>拖<sup>る</sup>東<sup>に</sup>少<sup>く</sup>方<sup>に</sup>も<sup>あ</sup>る

了<sup>る</sup>武<sup>の</sup>寧<sup>る</sup>古<sup>の</sup>塔<sup>と</sup>と<sup>り</sup>人家<sup>と</sup>と<sup>り</sup>考<sup>へ</sup>と<sup>り</sup>也

小<sup>の</sup>系<sup>の</sup>方<sup>に</sup>塔<sup>の</sup>東<sup>に</sup>と<sup>り</sup>外<sup>に</sup>塔<sup>の</sup>東<sup>に</sup>と<sup>り</sup>也

不<sup>有</sup>と<sup>り</sup>古<sup>の</sup>塔<sup>の</sup>後<sup>に</sup>千<sup>の</sup>胡<sup>の</sup>後<sup>に</sup>子<sup>の</sup>胡<sup>の</sup>

中ニケル玉々々々々々又少東  
方利寧古懐はわゆるまはは東と  
たあ玉方改守波はははは  
石懐千胡懐千胡はあ玉々々々々  
方々々々々  
善  
は玉々々々々山系と崇り言所也

玉々々々々々々々々々々々々々々々  
遠東々々々々方々々々々々々々々々  
場々々々々  
善  
遠東々々々々胡解々々々々々々々々  
鴨塚口と波り胡解と小東々々々  
中福有々々遠方々々々々々々々々

小江地西より北よりが夜後營三美  
兵の出入りも港入り方々毎笑の事なり  
七十里中へ平地は海を人衆と云へ由  
元小京と朝鮮と境は北より  
ある人々住居とありし名成  
要害北と水及居りい  
小京朝朝互に市ありし由水居り

河出る方々あり

善

兵市に及し小京朝朝互に後子朝  
後子朝と語る毎年互に由り  
渡成境乃入回乃内福城北  
ありて一月同きより北よりあり  
一月同慶典北よりあり一月互

此為と交易のたし十月よりお終  
去月よりお終りお終りお終りお終り  
場市にの宮波も没方々の中事  
按所は没却表も没々々々々  
と場市に地はもはははははは  
と版と海をの幕も折已方々  
とを海に口は為の安害に二艘也

今一い何れ九月此方々に茂水  
お波中の  
象古と何れ方々に  
善  
象古と中の方々に次陳難と  
中切方々に何れ方々に西難方  
の中概難と南の方中に境際

方くはらばい  
ゆきと船部は長板船行艘本名  
いたしと  
善

長板船は長きと此と  
色海船もいしゆり入津  
いしゆり入津もいしゆり入津

一艘も船は不かいと  
お船中いかに原乃しゆり船  
女三人乗一艘洋中と船  
お船長船海掛り船と  
お船長船は原乃しゆり船  
船長と船中しゆり船  
お船長船は原乃しゆり船

石ころ水分何言はの上

二月九日

辰水法作

浦瀬屋物

少林末のふり目録

右返事

甲子

志名

志名

沙田用

Vertical columns of faint, light-colored text, likely bleed-through from the reverse side of the page.

Vertical columns of faint, light-colored text, likely bleed-through from the reverse side of the page.

上心無不盡  
乃心亦在焉

進而內狀若心之德之有行言哉  
上之樣沙書來之成少府亦回意  
身正收以物又心亦之亂之一條  
脈書儀部在焉古收束之色中誠  
風況亦之富儀亦之志也中書  
云意之也 德之方之正許敬合第  
師以中丁者之反為以版力下

卷之四

中世の事少く存公之徳を懐く

意

二月十日

松村大虎



平田為元



蕃建連



平田要



平田高四



氏江典信



氏江直藏



大川將監及

伴須作織友

少物多々有候  
少くも之よりうきよきはとめ道なり

了了了

五五

まきあ



心内状啓とはい小京を以て及三付  
此今卯向風より越状末書哉  
年深清門徳いむ去月廿八日市入  
外比節経半ころる全川色ころる  
風説話とはい由急る探方お合要下  
者与人よりん系中の儀ころる美書経  
為式と惣念とはい得た系山経に

孝安中上以乘一飛沙步得米下也  
以信身希以出辰力了事上最出處  
之指遠之

二月廿日

信部在焉

長江古鐵板

長江典昭板

平田家門板

平田 要板

杉村大荒板

尚中上介向勃神河也是也

子氏也沙河也也

平田板中上

三月廿八日市入朱也

一 近江金別府より及沙法小京皇城邊  
目下三雲殿二十里と記述 貴方貴  
唐一歳不校の旨は附方と題合年  
の申す事

一 義別小京唐人の百人程入込  
牛山と初と申及了申成と評儀  
有と申は左に申す事と申す事

一 万友と申す事一と申す朝廷の事  
此如小京市に船船八石と申す事  
忠法乃全羅乃たらたと申す事  
右後と申す事一と申す事  
洪秀門の中と申す事  
万友と申す事一と申す事  
右の事と申す事

一 梅子とお話の中

一 全別から高貴さへしてはるる何れ

小京人入廷は討て朝鮮を乞と乞

は事たれと乞高貴為は之土地と高貴

買入居るは活方とはは海を入は年と

中候は其通る方と成とお話の中

一 飯前名に因らるお尋はる方とは

只今を活りきりとお答はは海を何も

うも折合付はは事と成らる中候と

そおと何れも越中といふお言の中

たれといふ事とちあは候らるる中

高人曰はは話とある梅子と中候と

先法前候は田名と成らる中候と

梅成候とあると成らる中候と

Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or account. The text is written in dark ink on aged, yellowed paper. It consists of several lines of text, with some words appearing to be in a different script or dialect than others, possibly indicating a mix of languages or a specific regional dialect. The text is somewhat faded and difficult to decipher precisely.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or account. The text is written in dark ink on aged, yellowed paper. It consists of several lines of text, with some words appearing to be in a different script or dialect than others, possibly indicating a mix of languages or a specific regional dialect. The text is somewhat faded and difficult to decipher precisely.

六月十日  
内用

1544  
1544

と云ふ事  
所  
と云ふ事  
と云ふ事

首状改修  
如板の舞臺丹中  
船船  
中道に  
順に  
欠年  
八送使  
押付



神皇正統記  
少子山公御流

三月廿日

松村大流



平田内久



蕃建連人



平田

要南

平田玄内



氏江典昭



氏江左次



右川右衛門

作須評減反

先九言

言月言

年四言

年四言

竹狀中達以板以後丹木及物  
沖通信中中一系物以須年  
多國強以子依入津松欠  
之五之品之買來之之  
八送使之乃渡方之室之  
易之之意亦欠彼國之  
張亦之遊之

公之為也... 誠大切之... 殆弗忍若... 夙夜之通... 之京之... 所買之... 不亦宜... 冠射然... 吏書...

之京之自胡椒... 以酒... 之儀... 丹之... 丹之... 丹之... 丹之... 丹之...

清の昔もあつたといふ事年々如く可  
是の如く清の賢者も亦く連門の賢者  
中にもあつた事  
公の如く清の賢者も亦く連門の賢者  
清の賢者も亦く連門の賢者  
公の如く清の賢者も亦く連門の賢者  
清の賢者も亦く連門の賢者  
公の如く清の賢者も亦く連門の賢者  
清の賢者も亦く連門の賢者

清の賢者も亦く連門の賢者  
公の如く清の賢者も亦く連門の賢者  
清の賢者も亦く連門の賢者  
公の如く清の賢者も亦く連門の賢者  
清の賢者も亦く連門の賢者  
公の如く清の賢者も亦く連門の賢者  
清の賢者も亦く連門の賢者  
公の如く清の賢者も亦く連門の賢者

清濁液方不計時... 拾遺大坂  
おわく拾遺... 是非...  
不計... 向海...  
西... 坂...  
清濁... 別...  
... 自...  
... 難...  
...

清濁... 見...  
其元... 深...  
... 元...  
... 法...  
... 坂...  
... 元...

海の大坂買調方状未及及家  
並にりしりお立々調出さるる  
之の抜急死に大坂に及地境  
いれりお心切

一 商主の強私静温にお  
連も入津世の管見未は  
時二年の子の品は

儀に在る事も主裁作通  
之の及に貿易必用は  
お欠の所を船船主の強  
之事と好い洋貿易中  
あり牛角代調法預る先  
ありて未と出ると成  
程方も一考とい得る

作おろる清濁黄液方中くは五言易  
事くはあやう然るは之の平に及圓玉  
心用く求くは如くは高き持液を連  
乙義くはわくも甚候ては捨るは物  
ふはあやう

此方様くはわくも胡餅 沖通法  
決ては年くは清濁黄液方中くは夜く重

清濁黄液方中くは五言易  
紅毛は清濁黄液方中くは夜く重  
清濁黄液方中くは五言易  
清濁黄液方中くは五言易  
清濁黄液方中くは五言易  
清濁黄液方中くは五言易  
清濁黄液方中くは五言易  
清濁黄液方中くは五言易

臣時機ふりて元時不任在弟一  
九斗一 亦海高洋一戸毒ハ  
兵右高親ハ母ハ一子ハ中一  
弟高ハ

右辰力子一進忠ハ一  
三月 松村大流  
中田力元

善建直人  
中田字門  
氏江典信  
氏江左織

小田父之書反  
水島友之反

古通事

正月三日

古通事

古通事

古通事  
古通事  
古通事  
古通事

沖内用

*Faint vertical text in the left column, likely bleed-through from the reverse side of the page.*

*Small vertical text located near the gutter between the two pages.*

中内田

高桑三三郎  
右三三郎

尚然今世之世習  
中内田之世習  
世習の海と南に下通る  
交通云々  
海と南に下通る  
世習の海と南に下通る  
交通云々  
海と南に下通る  
世習の海と南に下通る  
交通云々

思ふに不向後す夫に沖用向素  
文通の事と事法なるも貫通  
種及福の事と事法一途に沖用  
は易に中興の九斗に依るに事  
は素を遠失とわぬるに及ぶ  
一 右の事と事法は沖用向素  
は素の事と事法は素の事と事法

治世に沖用向素は沖用向素  
今更不然の事と事法は素の事と事法  
す勝法に見張る向素の事と事法は素の事と事法  
は素の事と事法は素の事と事法は素の事と事法  
は素の事と事法は素の事と事法は素の事と事法  
は素の事と事法は素の事と事法は素の事と事法  
は素の事と事法は素の事と事法は素の事と事法  
は素の事と事法は素の事と事法は素の事と事法

後三及心道夜者  
右之辰也中述部正  
之坤龍之

寅

胃音

松村大流



平田ゆき久



高建連人



平田

要南社

平田宮内



氏江典膳



氏江左次



古川 乃 監 友  
作 須 伊 藏 友

古 法 状 書 古 亦 進 以 乃 友 乃 道 善 心

望  
皇 子 月 十 日

以 藏  
乃 友

古 法 状 書 古 亦 進 以 乃 友 乃 道 善 心

永年如秋未定  
修之く先んを  
りりしを  
之卯く  
之く  
之く  
之く  
之く

心口状言上は世元  
清りまよ  
事申換  
君清  
之分  
年  
弘治

古月  
作  
心

書清獻先之押之德成種指之德統  
中之德德之年一年入嗣之德德我  
也德之德有出物之方方接德之德  
不德德德德德德德德德德德德  
古之方德德德德德德德德德德  
德德德德德德德德德德德德德  
有德德德德德德德德德德德德  
不德德德德德德德德德德德德  
一合之德德德德德德德德德德  
先德德德德德德德德德德德德  
馬德德德德德德德德德德德德  
水德德德德德德德德德德德德  
也德德德德德德德德德德德德  
非德德德德德德德德德德德德

且云古傳云云遠年其年公許處  
 生時年一丁力年元市中と名備通  
 之海月以の生年大也とある石中  
 之形及後抄に成る所も亦あり  
 之世を當る事も亦ありと云ふ年  
 事後之指も亦ありと云ふ事漸後同  
 之其内より云何者同一口も亦あり

事古傳云云と云ふ事後抄に成る所も亦あり  
 之世を當る事も亦ありと云ふ事漸後同  
 事後之指も亦ありと云ふ事漸後同  
 之其内より云何者同一口も亦あり  
 且云古傳云云遠年其年公許處  
 生時年一丁力年元市中と名備通  
 之海月以の生年大也とある石中  
 之形及後抄に成る所も亦あり  
 之世を當る事も亦ありと云ふ年  
 事後之指も亦ありと云ふ事漸後同

少屋張忌留燈之

有月廿八日

乾

舟



中



白川將監極

佐須伴誠極

程

中

小由

心

極

中

右

極

中

極

從茲好某為約... 後... 朝... 月... 右... 何... 法...

先... 第... 法... 亦... 法... 亦... 亦... 亦...

下言... 後... 漢... 漢... 漢... 漢... 漢...  
 漢... 漢... 漢... 漢... 漢... 漢... 漢... 漢...

謝... 謝... 謝... 謝... 謝... 謝... 謝... 謝...  
 謝... 謝... 謝... 謝... 謝... 謝... 謝... 謝...  
 謝... 謝... 謝... 謝... 謝... 謝... 謝... 謝...  
 謝... 謝... 謝... 謝... 謝... 謝... 謝... 謝...

月... 乾... 守... 浦...  
 年... 田... 庫... 之...  
 申... 之... 官... 之...

三氏江左減極  
 氏江典脂極  
 平田宮門極  
 平田零極  
 蕃建五人極  
 杉村大藏極  
 平田高元極

山中...  
 山中...

以極...  
 拔...  
 萬...  
 不...  
 六...  
 大...  
 所...



古語に九入を成りし事古に傳ふ一言後々  
公道向るに夜も深時控にお及りし時  
馬皮に九入を元々として殺古洞能なる  
法門を悉く如九入を成指し決りしに分

公道を成りし一大事に後三及清淨一統  
心補之段を重傳志願お海方と名急一深  
出訓を成りしに能解牛皮を重傳一子一實後

之儀を 公道に肩運る事古に傳ふ如  
古語捕は必傳を成りし既老の故小島  
重傳の重傳初牛皮に別名を後身重傳  
定揚お出訓故を傳は重傳重傳入軍重傳身  
色にしり入る重傳出軍重傳重傳古重傳重傳  
沙美重傳重傳重傳重傳重傳重傳重傳重傳  
後押移し重傳重傳重傳重傳重傳重傳重傳捕

此乃味之也。以附馬皮之約定。其牛皮與結  
以之。其皮也。其皮也。其皮也。其皮也。其皮也。  
出以。其皮也。其皮也。其皮也。其皮也。其皮也。

公道。其皮也。其皮也。其皮也。其皮也。其皮也。  
那。其皮也。其皮也。其皮也。其皮也。其皮也。  
其皮也。其皮也。其皮也。其皮也。其皮也。  
其皮也。其皮也。其皮也。其皮也。其皮也。  
其皮也。其皮也。其皮也。其皮也。其皮也。

其皮也。其皮也。其皮也。其皮也。其皮也。  
其皮也。其皮也。其皮也。其皮也。其皮也。  
其皮也。其皮也。其皮也。其皮也。其皮也。  
其皮也。其皮也。其皮也。其皮也。其皮也。  
其皮也。其皮也。其皮也。其皮也。其皮也。

赤面之儀... 汗流... 口舌... 歌  
内言... 固... 押...  
... 唐方...  
... 反... 接... 取...  
... 唐方...  
... 一...  
... 話... 話...

... 又... 汗...  
... 一...  
... 一...  
... 汗...  
... 汗...  
... 汗...  
... 汗...  
... 汗...

物取の二文、辰の河津、辰の流、事、松、  
番、辰、中、右、右、右、右、右、右、右、右、  
と、右、右、右、右、右、右、右、右、右、  
一、辰、辰、辰、辰、辰、辰、辰、辰、辰、  
中、辰、辰、辰、辰、辰、辰、辰、辰、辰、  
大、辰、辰、辰、辰、辰、辰、辰、辰、辰、  
只、辰、辰、辰、辰、辰、辰、辰、辰、辰、

常、辰、辰、辰、辰、辰、辰、辰、辰、辰、  
車、辰、辰、辰、辰、辰、辰、辰、辰、辰、  
男、辰、辰、辰、辰、辰、辰、辰、辰、辰、  
之、辰、辰、辰、辰、辰、辰、辰、辰、辰、  
一、辰、辰、辰、辰、辰、辰、辰、辰、辰、  
中、辰、辰、辰、辰、辰、辰、辰、辰、辰、  
右、辰、辰、辰、辰、辰、辰、辰、辰、辰、

奥く波口箇無止地人人口一難防極之要  
老心之故在好山

一 右は馬助の故也

市子採法及人数採法内直以付申しは馬  
之由も少くも原も也必法尤くは故に也  
以及け先右京原と申す末は故に也  
小室清長法物門法に直以て家介と申す

右馬助の故有るは其の所箇も其故も一應  
実志子之書も是は馬助の故も海田  
少丸居の由も其原の是志法も所公波戸外  
以流とおん中其原書又配友家の中其  
友家にも其の原書面皮と失ひは故に也  
少部王一統は其書も其の原も也其書も  
其原書之原と其書も其原も其書も其原

右赤糸江より先給。沙屋交と敵一夜  
云許及先納沼。後も一冊。九之のノ管と  
附り先見。後尤も海志法。巾席も此の  
家同人。男分も危難。縁り。美一古洞。後  
お書。此の。後。押移り。向志。名。ノ。後。

公持。沙。海。不。江。遊。時。機。押。移。一。巾。七。紙。斗。  
此。事。後。老。口。庄。の。右。沙。王。法。師。後。介。の。

沙。後。善。寺。の。沙。上。道。志。寺。の。先。代。既。  
此。寺。傳。分。月。割。出。銀。一。六。拾。貫。又。先。月。分。寺。  
所。及。全。右。一。件。在。後。と。お。見。為。月。前。も。  
此。所。一。及。所。の。機。云。お。見。能。お。志。美。事。  
遠。約。系。成。崩。之。及。只。之。心。結。之。は。合。也。度。の。  
既。先。年。田。代。為。依。代。大。皮。と。機。前。も。て。  
此。貴。拂。之。成。り。如。此。在。お。志。川。清。之。者。也。

船中者は又も成後も有る者也  
而志行はるは業拂ふはる後も分る大板に  
もり来りしと船中の必も少く皮紙押  
便令清らる度切くも成居らる後渡り  
若一見行来し産と見極はらるる遠く  
之の由けは買洋次書(意)對中の中  
先年胡船に船船の後も牛皮と後を村

之者と若紙管厚くも如沙入切くも元也  
之は成居居る胡船産(意)後の中も  
公道しるも成居るも成居るも成居る  
成居るも成居るも成居るも成居るも  
成居るも成居るも成居るも成居るも  
成居るも成居るも成居るも成居るも  
成居るも成居るも成居るも成居るも  
成居るも成居るも成居るも成居るも

捷會及以武至養心力之治志防備  
一甲此如志子善書并分之浮沈之結りる左  
沙也及毛歌之也出訴及以崇之也  
為養防備來中自表及出訴者成りて  
此東の亦有尋回也一也一也一也一也  
二我のるも也言一毎言文一也一也一也  
上古物一辰也既く也言也一也一也一也

何得方也言向焉也此治法向極之也  
此治也業以志素一也後之能引之也  
此治也業以志素一也後之能引之也  
此治也業以志素一也後之能引之也  
此治也業以志素一也後之能引之也

山口良人  
大谷直人

四月

乾 守之備  
周分之在德

中  
勤是未也

從之古文之滑半及西書常九之也後之位或之  
限之志也信也廣也之中一之也中在振拂切也  
波度也度以止又冥也深也之也半像之也也也

卷之五  
中  
勤是未也  
從之古文之滑半及西書常九之也後之位或之  
限之志也信也廣也之中一之也中在振拂切也  
波度也度以止又冥也深也之也半像之也也也

卷之

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

中書省上西州事

一筆唐上江朝能及入米角沙  
若海陸之子儀為官年秋成亦入送米  
之內式子儀即合子子儀山費米之及預出  
於每法許送米以受右代儀之法  
費米也及斗一及建之大造一及造  
換分在及成南附泥米在如形山及  
東高右費米代儀者為年一及下以洞

三代之時は貿易の便は入るに在り  
爰に高麗代漢書に貴米九斗一以柳  
上河舟右法南河は後合福治大地板  
と作付たり人より高法生元経解し押幣  
流る兼知仕先以於善為を朝に難治  
舟言友余の道におよむ便に致公と後  
上法先の事一書好に然る又は海評

は深合の候舟は難迫頂上にお成  
云酒必同等の子為そよも月と法  
瓶お之減は古切中力は情合押信  
着の必用は慮は舟評一書生  
上辰酒の公評は難迫は始末書便  
高河法動定事評前と中を並出評  
法少通交下は事一書好に合評

洞と米は若くは下り後と山事  
穀物おきの助多うら東西一清危急  
古松の産地もすくはれを是と云道  
洞代月割七折其れ酒半皮月割  
之後後とて月く母海神お酒の母席  
の産地も若くは若くは深き竹あ金に  
は安堵とてわとりにおあき方便も一筆

後り如洞代月割之産と七折・因道  
所中若くは今とるを漸加湯危迫に危  
平松危敷多博二折と三折と黄百尺  
絶りとは産地如加湯危を口は月割之後  
此年尾金くは紙のくは子站名之如  
産米中右支家く月割と深と武百  
玉松中右站入方及頼港之産と紙の

此類石炭成以地之成也産以地之唯今  
一書信也地子地之書地也地地地地地  
分一月割格武貴士百及分分分分分分  
牛皮月割之役也地地地地地地地地地  
月地也中清牛皮也書之好障也分分分分  
以米出地方及地地地地地地地地地地  
七費及紀別地自地地地地地地地地地

是地也地地地地地地地地地地地地地  
百也地地地地地地地地地地地地地地  
交也全地地地地地地地地地地地地地  
地地地地地地地地地地地地地地地地  
地地地地地地地地地地地地地地地地  
地地地地地地地地地地地地地地地地  
地地地地地地地地地地地地地地地地  
地地地地地地地地地地地地地地地地

稽含と現代月別とも及所の法に  
已附と調金一會義知と玉帛一  
名公納  
名目と原と法不却合お生  
お拍の色好くは忽于定式  
相法は後法  
左障お生いさ凡と法多  
もは法切手方  
この場は案路と一書理  
如法金と玉帛  
事情中解押法内座通張  
と義法  
方と口と善と曲と形  
由日と命と法  
法と法と月と言と子  
如と玉と所と二  
法と  
無と保とくく  
善と法と法と中  
百と法と  
法と法と方と  
も別と方と  
竹柳と光と  
もは法と  
方と  
九斗と常と  
とととと  
法と外と  
法と及と  
法と  
夫と法と  
とととと  
九斗と  
法と及と  
法と  
凡と法と  
法と用と  
方ととととと  
とととと  
とととと  
とととと

此度為ともいふ事を持ちて又分法品主と  
手と前へ一握くさるる分法種類に入  
之理の拂文渡方礼斗の法は後飯合  
は口の後の主を飛ぶ外少と後口歌  
已成と口の之を成す所も中上の酒と同  
慮くとも死口の成おとの事にて難計  
けし子成第世末高あ成す事なりと目文

昔傳を立以中名は黄米と成りも昔の  
此要法は為玉の法生成の道建り量法應  
此是物也諸の外之能事法合の法應の  
左の事の中法家中に下る令採若拍の  
以援助米為欠の旨お深一節拍も此の度  
討の事なりと現代の黄米は信許は成  
口は此の助合も能くお之居り成り成とも

要法之為正以指予卒乃若也  
勿漏此處得言右中之以通之南射大坂  
之極防誠之生切方之場法合一統  
之款之予之若深也也見以法言行合  
之生法之在之在法生法之道之在生進  
之生法之在生法也予之以之生力之  
也全之道校力法以生法也

第一度部若屆之場也也來以射去也  
止事一以指主之向之信法也也力也  
之九之重基法以生法也城之生法也  
法之生法也力以生法也也生法也也  
之場也也生法也也生法也也生法也  
大坂也也生法也也生法也也生法也  
具度也也生法也也生法也也生法也

此等物は古に於ては時勢不及之非は場合  
在る尚勅令方分を懼る迫りは仕合  
此等物既一壯子年一以来は為替亦  
然る如解は後述は海に在る是度は貿易  
此度果方有るくは是等物も亦是は海に  
後振別は丹城は在るに於ては亦  
九右方亦在唯今亦是明くは子之亦之

以得去十分代品物も出さず留るも或  
以先之法帳亦一代品物は續き是等物  
亦取附と申すは倍はは利は二下玉  
然時去永年一慮くは是等物亦在は  
場合は二附及是は後述は亦是  
亦好は是の中は以後は是は得去一壯年  
此等物は皆川濱火也

清集府 計為大金之調進之件  
其後因代法地々々は為前未行也  
以元之被りと表取世表之知る度子人氣  
占離一市場之押移いと記列月液納  
金子大金調進之備と後行分當年  
去月限と持しつゝ之月液納之事  
と半おに計い付少く去山深合も仕能

占取一市必くとも好居いと生憎一卜先  
兼種也辰大卜原川流消本皮之不  
去月限と可し程費用と心担遠お取  
然り否法向く表川遠約とと也  
密取と解一人心占離いと記事  
占取一市必くとも好居いと生憎一卜先  
兼種也辰大卜原川流消本皮之不  
去月限と可し程費用と心担遠お取  
然り否法向く表川遠約とと也  
密取と解一人心占離いと記事  
占取一市必くとも好居いと生憎一卜先  
兼種也辰大卜原川流消本皮之不  
去月限と可し程費用と心担遠お取  
然り否法向く表川遠約とと也  
密取と解一人心占離いと記事

心

一、市中に貴米を産出する可  
南東連方より後ありて、  
之後、後、大坂の法を歩崩れ、  
肉、法は市中にて、  
志用之、  
心得る、  
州、大坂市中に、

一、桑より云、  
支那店、  
以、  
功、  
歩、  
法、

調是出来一市増取之令已去之得  
止事一言之志之理も調是乃其積集在  
も事知之言の志の後定し三産物以割後  
取高長押一以の常事一の商一不仕所  
事一之言の志以の志大板志惣取集取以志  
勿海向うの志扶助事一の志知の志取集  
以得志取令大板志取切以の取以常事一の

何分金取仕の道一法令一商一及波評の  
儀一の取以志以場大板一の志常事一の取  
以得志名一の志之理押一後志仕以の取  
金備一仕以の取以志通志取取取取取  
金取一の取以の取以の取以の取以の取  
以取以扶助事一の志切志取取取取取  
取取取取一の取以の取以の取以の取以

手好持と縁を心証去るは舟並に  
水下度と預の相く之は舟並に  
押移別る由動の音並に舟分大板に  
崩及以後去るも必ず怖はは後  
大板以後去ると有舟の人音はは法  
再具之は舟並には枝育並に舟切  
取相と好は持去大板の船と交心はは

粉膏は舟並に度思評はは後舟並に  
扶助米も今彼大板も舟並に度  
舟之は舟おと一舟と勿論は後  
舟は金道去舟と舟之は舟並に  
舟は時持と信大板の船及は後舟並に  
舟は舟並に舟は舟並に舟は舟並に  
舟は舟並に舟は舟並に舟は舟並に

是入未好薄はあ金道三三心とあはる  
信申は大有も小言も失ひは極く端玉の  
河川忍入の池中かたうたういふ事一方  
為上長成候と世元限交定一仕法最  
多く是乃止事と交分縁大も少角之後  
中上は後二也度いふ事信法情察に取上  
何分五也少通取下程法賢慮しく法

其國と云ふ如く或下は極深く寺願は  
其為二月常法相或方外一内方外  
入望は少費米米中は道心配法度及  
入候は心配おとせ直に程進く一巻一巻  
法勤定事は口申候は極一仕法少通  
其下度事好は申候事一為下申上は所  
法度は心配法云

五月廿日

乾 守之浦

岡分之丸

氏江丸織標

平田宮内標

平田 要標

葛建車人標

平田為之丸標

杉村大藏標

世來由來

大市世以即世因近善心望

宵月士名

此以存成  
五月 仍修之

少之之乃乃

此乃物也

高六月世方華

沙田田

とらふ事  
お達  
市少い

心内状を御之に  
申上り候所  
由年始より

市廣式部福申  
申上り候所  
申上り候所  
申上り候所  
申上り候所

市少い處  
申上り候所  
申上り候所  
申上り候所  
申上り候所

市少い  
申上り候所  
申上り候所  
申上り候所  
申上り候所



此上之山を裁重三或山新之山に  
流下し流帯を山に於て後古武  
法正の山を流下し或山に達す此山  
力市述也武之法公之理流之

寅  
四月十日

佐次伊減

古川將監

文江古藏夜  
文江典昭夜  
平田多内夜  
平田一粟夜  
著建直人夜  
平田為元夜  
杉村大虎夜

古の状を十九の如達改書  
及道云の如

青月寺

杉村大茂



半田為元



善達寺



半田為元



長江藏



右門將監友  
佐須伊成友

西口

西口

西口

西口

西口

西口

西口

高野山

法内用

Faint vertical text in green ink, likely bleed-through from the reverse side of the page.

心之口

と申すに似て  
おん心の中  
及ばずと云ふ  
心の中  
あはれに  
心の中

心の中  
今度彼  
心の中  
心の中  
心の中  
心の中  
心の中

六月廿日 杉村大茂 

平田為三 

高建重人 

平田三白 

長江左藏 

上門將監及  
依須伊藏及

以內狀語之は山は高き監其方は燕居の  
監官乃維多中に繁方清重周海無汲  
廣瀬其方は方にお見山方は京兵乱  
極におる山は是言し波方回入る中出山  
方は通中と山  
廣瀬其方は方におる山は京兵乱極子  
進々兼居山は是言し模拓其方は山

山は高き監其方は燕居の  
監官乃維多中に繁方清重周海無汲  
廣瀬其方は方にお見山方は京兵乱  
極におる山は是言し波方回入る中出山  
方は通中と山  
廣瀬其方は方におる山は京兵乱極子  
進々兼居山は是言し模拓其方は山

中向山嶽乃維お言ひ其時年之令之使由  
二月初旬水東亦之有く内朝にお成りし又  
右一乃し内之遊居し人之又活業し其を  
比之松子も其玉る危事之模相おすし後  
中向山嶽乃維お言ひ其時年之令之使由  
美入の勢も其方し其成らお尋し其時自  
美入の勢も其方し其成らお尋し其時自

福<sup>二</sup>不<sup>一</sup>也<sup>二</sup>其<sup>一</sup>日<sup>二</sup>年<sup>一</sup>之<sup>二</sup>移<sup>一</sup>星<sup>二</sup>美<sup>一</sup>也<sup>二</sup>了<sup>一</sup>居<sup>二</sup>山<sup>一</sup>中<sup>二</sup>事<sup>一</sup>由<sup>二</sup>性<sup>一</sup>也<sup>二</sup>  
其後只今と何し松も其言しと云くはさか  
お持て中居し其言し其後之模相おす  
中向山嶽乃維お言ひ其時年之令之使由  
お尋し其言し其成らお尋し其時自  
活業し其時自  
中向山嶽乃維お言ひ其時年之令之使由



列に下不く私生は存夫方く方受成り  
長意は以外一向妙法を不義中いふ  
云油の抄探り下り上先方く越中流流り  
徳山は後方下り上先方く越中流流り

有母方

後部方

氏方人藏様

平田子内様  
平田 要様  
杉村 大茂様

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page.*

二ノ世系と有る事

「たふ状とす」方お達しひんせひんはるんはるん

七月

信成

古風反

古風反

古風反

古風反

古風反

古風反

古風反

Handwritten text in vertical columns on the right page, including characters like 月, 日, 年, 月, 日, 年, 月, 日, 年.

心内用云

Handwritten text in vertical columns on the left page, including characters like 心, 内, 用, 云, 心, 内, 用, 云, 心, 内, 用, 云.

山田國志

筋状と張との通利が船  
退帆、後とて収得のこまに  
之後至別下田表、滞り船も  
有し申せし、迄て又同下る去月  
十方より山田接お始り後日、  
山田接有し、い由る是と始り  
山田扱方、出らば、山田中より

上り申す

中ノ航先及浦契表波来巾志  
系リ下田表洋为中ニ後波是  
手懐ク春助成力有クニ事ナリ得ル  
危角ハ穂満クハ九斗ニ先志  
云事航日所退帆最平下田表  
洋為ク船も去月廿八日ニ残波  
退帆ハ由事ナリハ大穂満ク事要

極方ハ遠謀ニ為ルハ事云成事  
波劫考ハ得志進来ハ出洋也  
員出船海航事ハ第一揚港ハ  
波ハ能合付角波狂波ハ船ハ春助  
有クハ是ニ事ハ穂満ハ反扱不  
お成リテハ事ナリハ深ニ意波  
船廻ルル為ハ得付ハ意ハ乞

先心之... 心之... 有... 差... 孔...  
脚... 後... 有... 心... 之... 後... 心... 立... 心...  
心... 心... 心... 心... 心... 心... 心... 心...  
上... 心... 心... 心... 心... 心... 心... 心...  
心... 心... 心... 心... 心... 心... 心... 心...

極... 心... 心... 心... 心... 心... 心... 心...  
心... 心... 心... 心... 心... 心... 心... 心...  
心... 心... 心... 心... 心... 心... 心... 心...

寅

六月

休須伊織

古川將監

氏江右藏殿

氏江典膳殿

平田之五内屋  
 平田之安屋  
 暮建車人屋  
 平田為元屋  
 杉村大茂屋  
 右清状去七月相達以取書  
 及是進言以取

七月廿九

平田為元



暮建車人



平田之五内



及江右藏



右門將監屋

作此保藏版

卷四

卷四

卷四

卷四

卷四

卷四

卷四

卷四

卷四

待て候人

夏の日を

法内用書

此の書は... 法内用書... 待て候人... 夏の日を... 此の書は... 法内用書... 待て候人... 夏の日を...

然也

心内状今彼上の譯者波海の時  
めりて運に於て市或比合之候お知  
以之全例之形後有之事取少  
事取少女度於助之由之方也  
且之奉取比合お知以之由之方也  
少預書之候之度許之付不度之思  
お流以知一校以此候為一事述也

此中知譯候  
事取少女度

少在公之皆後之

至七月方

依須伊藏

石川將監

氏江右藏友

氏江典膳友

平田玄白友

善建車人友

平田為元友

杉村大茂友

下涉狀去方相達

及口通言

八月十日

平田為元



*Faint bleed-through text from the reverse side of the page.*

蕭建人



*Faint bleed-through text from the reverse side of the page.*

年用字內



*Faint bleed-through text from the reverse side of the page.*

長江典昭



*Faint bleed-through text from the reverse side of the page.*

長江古藏



古川將監友

佐須伊藏友

五石記

荷葉田園記

五石記

荷葉田園記

五石記

荷葉田園記

法月用

法月用

法月用

Faint vertical text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side of the page.



いさしは方々を他の上の山に  
わが品物たるも各邑に動かし  
し子も先年東萊内禪將表  
も勤事多し月如能く及後  
お好者お知事表有言  
事お遠原上お流しは行お  
しと事細お此お為りお流る

て送る事

公名は法印長海山あり  
お殿石末文化十二年海州縣監  
李神徳に剛及の味お生  
おあても少双方にお元抄と  
お力お事お正に於ては許  
お事お事お及にお中にお

此書後至所平以行其為之  
猶是同情表之少佳之儀文比之  
子教向佳之佳及經液知以對也  
下海及尚之意也余死此集知進  
中亦公存此佳也尚之意也  
中述也此少其公多持清之

分旨

宋田之口



文江典



文江典



古川將監

法須任藏

古事

古事

九月

廿五日

五更夜

淡月如霜  
照庭前  
竹影搖青  
露華濕  
草色微黃  
蛩聲漸  
遠  
雁字橫  
天  
秋意正  
濃  
人共  
秋  
老  
心  
隨  
月  
滿  
空  
歸  
夢  
幾  
回  
空  
對  
一  
窗  
殘  
照  
思  
無  
盡  
處  
是  
鄉  
關

九月廿五日

1

沙田用云

宣統元年七月廿七日

Faint vertical text in the left column, likely bleed-through from the reverse side of the page.

Faint vertical text in the right column, likely bleed-through from the reverse side of the page.

後向一系一也一  
兼知い先ん何方も  
道迫り自苦一也  
事い一許一後一  
之垂一程一原一  
まの不知一  
通一也一  
及一  
兼書一  
然一  
之流一

心可状今借一  
以河法一  
言及烟一  
以王法一  
公全一  
武方一  
古月一

産物送取方亦之  
埃北河内使とも  
泊り要ん之り  
合巻之  
大板より運出  
少く之り  
此等其  
二許  
伏しむ  
お達紙  
能民振 能民振  
分科

今更に二月の如く交る至之野川  
色の中  
冬  
公替  
以下  
美以  
少

方は  
能民振  
分科

今更に二月の如く交る至之野川  
色の中  
冬  
公替  
以下  
美以  
少





おしこ海金式と音の接雨以上海  
之接雨とていふに實及の産物代  
其産物仕向お成次第言ふこと  
過去年々々物能大坂音の南音之  
山根音々々々々及早此先と産物  
此々山音産物之不安次第と此上音  
お朝能の海音諸音々々々々音産物

山根音々々々々夜音々々々々

一 山根音々々々々科金式一時音産物  
今音中音式音産物音々々々音産物  
去去年々々々十月十日音産物音産物  
産物音産物音産物音産物音産物  
音産物音産物音産物音産物音産物  
音産物音産物音産物音産物音産物

列子言武王為一命之國也  
善河之帳之深書之也  
六月十日之深年之志行又深也  
列子言武王為一命之國也  
中進進之也  
一命之國也  
一命之國也  
一命之國也  
一命之國也

今河之深也  
不深也  
日夜也  
遠也  
今河之深也  
不深也  
日夜也  
遠也  
今河之深也  
不深也  
日夜也  
遠也

此は白下、夜光、たし、料、金、二、段、母、の  
中、之、越、る、と、大、坂、の、山、は、向、お、成、は、  
お、上、河、山、は、之、お、成、は、山、は、成、も、中、  
山、河、大、河、河、山、は、之、山、河、之、成、と、右、  
中、山、河、河、山、は、之、山、河、之、成、と、右、  
夜、光、山、は、之、山、河、之、成、と、右、

一 終民標 終定標 入料金之成

之、河、山、は、之、山、河、之、成、と、右、  
山、物、入、料、金、之、成、山、河、之、成、と、右、  
飛、山、河、山、は、之、山、河、之、成、と、右、  
之、山、河、山、は、之、山、河、之、成、と、右、  
山、二、字、標、山、河、之、成、と、右、  
積、書、之、山、河、山、は、之、山、河、之、成、と、右、  
山、河、山、は、之、山、河、之、成、と、右、

城瀆之乃中後山根お達並是是屋  
高解高お廣在お山根へ清登長  
高乃金山上即今へし山遍通乃高天  
今へし山科山岡夜今へし大田へ後  
中後山科之乃今へし山根へ清  
お山根へ清配へ山事と高の山根  
高も山岡用へし山岡夜と高天切を限

山場今へ後河へも山根考へ高天  
高山根高今へ山根へ高天高天  
山根高今へ高天高天

高へ山根細高へ高方より高  
高方高高接へし高方高天高天  
高へ山根高今へ高天高天高天  
高山根高今へ高天高天高天

中々々海法相之在少々角用之  
次中々角是少此之其之序是少極之  
之信之公高之其後之其之其之  
之其因疑中一其之信之其之其之  
之其其其之其其其其其其其其  
之其其其其其其其其其其其其  
之其其其其其其其其其其其其

急之出府火 以有及有海法則其  
亦達之其其其其其其其其其其  
之其其其其其其其其其其其其

其其其其其其其其其其其其其

右川將監

長江左藏後

長江典播後

平田 高内 茂  
 平田 要 茂  
 蕃 建 直 人 茂  
 平田 为 元 茂  
 杉 村 大 茂 茂  
 右 涉 状 之 月 朔 日 申 達 以 書 之 心  
 及 清 返 着 以 心 之

九月 方  
 平田 为 元  
 蕃 建 直 人  
 平田 高 内  
 长 江 典 膳  
 长 江 左 衛



古川將監及  
佐須伊藏及

（Faint bleed-through text and circular stamps from the reverse side of the page, including characters like '日本' and '印'）

江戸表の諸君と為進年一の法に  
公替と印

上へ採り料法家中一以下に  
沖前採 於氏採 証定採史料

此法向也... 難付候波比津法  
同列中極う... 此法紙に... 波  
此法及不... 紙中... 法定...  
... 法中... 法

一 此浪漬酒... 樽及... 法  
百貫目... 白拾... 貫目... 法  
分排... 上浪... 入... 八貫目... 右浪酒

... 貫目... 法... 樽... 法... 波... 法...  
... 法... 法... 法... 法... 法...



事考り代悉法存来りる夜中へ心引而事  
大造り定し美門に有しは夜に取受候事  
中裁正法中并夜に所の侍と上根指し書集  
大後と云宮洞は深き夕の細お角証とある  
秋より美神方及洞はく法にの夜音書又  
くく内本一とある年切お満の法とある  
此等と申すくは後よりいふ成たとと書く

其條不足くくは高知夜仕深と有何分理上法  
指し書目、代價お付来た現上根、洞在  
おお角部志便利、産物宮洞送渡り元  
又く大後渡、大後お南、割掛お付く  
送渡り元は、お角部志及く急夜目旋  
は、お角部志及く、一有法度候  
一、根指洞書行、白き方子音行と上根

拾八貫目お洞と係三子公九貫目、洞と係  
朝鮮産物大板と係三子公九貫目、洞と係  
少貫目、代金三子公九貫目、洞と係  
之處お報表、お報表と係三子公九貫目、洞と係  
賞洞言進お洞と係三子公九貫目、洞と係  
少振分、お振分と係三子公九貫目、洞と係  
賞洞言進お洞と係三子公九貫目、洞と係

一、洞と係三子公九貫目、洞と係  
お洞と係三子公九貫目、洞と係  
拾八貫目、上振代と係三子公九貫目、洞と係  
お洞と係三子公九貫目、洞と係  
お洞と係三子公九貫目、洞と係  
お洞と係三子公九貫目、洞と係  
お洞と係三子公九貫目、洞と係



この挿入は種々のあるおまじの付た白より  
二おぬ丈は深き舟

沖前標と入料且上浪波の波は  
ツ部合おまじの丈は向ふに斗の付るも波地  
ツ波の波ははれ法は波越え波下りの中  
二有ツ波の波は向ふも波越え波下りの中  
波の波は向ふも波越え波下りの中

おぬ

一 沖民標 沖定標と入料今 波越え波下りの中  
沖二方標と入料今 波越え波下りの中

おぬ 沖二方標と入料今 波越え波下りの中  
おぬ 沖二方標と入料今 波越え波下りの中  
おぬ 沖二方標と入料今 波越え波下りの中  
おぬ 沖二方標と入料今 波越え波下りの中

少は清きにとりてきくはゆへに大令のしほ  
中こい法もあむきくもはれなきは  
少部義遠のし料にけし解のし捨て  
語にけしけしき後後せふは  
身をも多事しりか今い  
たし料合ふはけしけし  
種にけしははけしはけし

後にもあつてしゆはけしけし  
あつてしゆはけしけし  
あつてしゆはけしけし  
あつてしゆはけしけし  
あつてしゆはけしけし  
あつてしゆはけしけし  
あつてしゆはけしけし  
あつてしゆはけしけし  
あつてしゆはけしけし  
あつてしゆはけしけし

空分

少切なきは

附札

衆人角の東西を維迫頂上と云ふは  
此中の上根及出方且上法代物較難物  
送渡り号彼北海に因縁あり其の意は  
善悪を裁断するに非ず深き前より  
於及性法然也

於氏極 於定極 各科 厥之是非

沙由うは向あ及斗一して難付を力論の心  
を東海極の維根を令の半射の心付後  
今、既、常、心、也、何、れ、南、附、の、自、由、の、心、也、  
遊、の、心、也、也、並、に、遊、の、心、也、也、  
江、の、心、也、也、遊、の、心、也、也、  
以、遊、の、心、也、也、遊、の、心、也、也、  
以、遊、の、心、也、也、遊、の、心、也、也、



浄土用書

寛正二年十月十日

浄土用書  
阿弥陀如来  
南無阿弥陀仏  
往生西方淨土  
念佛三昧  
蓮華三昧  
法華三昧  
妙法蓮華經  
觀世音菩薩  
普門品  
大悲心咒  
往生咒  
淨土三昧  
念佛三昧  
蓮華三昧  
法華三昧  
妙法蓮華經  
觀世音菩薩  
普門品  
大悲心咒  
往生咒

阿弥陀如来  
南無阿弥陀仏  
往生西方淨土  
念佛三昧  
蓮華三昧  
法華三昧  
妙法蓮華經  
觀世音菩薩  
普門品  
大悲心咒  
往生咒  
淨土三昧  
念佛三昧  
蓮華三昧  
法華三昧  
妙法蓮華經  
觀世音菩薩  
普門品  
大悲心咒  
往生咒

とて事知らざる者  
の所長は自ら  
は常能くは  
志は

節状と雖も今度  
の波峰の意は通  
友評は清なる  
云語は因りて  
已れぬは其法  
右法は其法  
信法は其法

155

14047134029

下とん一旦返るる年海と又再海  
乃後一乃くし着尚年報在油のさ  
山とあそく此先のり公おまは付と  
又く如先年一宿多くの氣又とお換は  
見海居は付不海止此先のり子も全  
報度納のりもあおま海と右門あ  
信入るるくはと一合茂返合お福常時

海捕通お塞す一季留におまはる  
治家中深の家ありと素三浦形女中  
治全之と未一向の波茶市も同夜  
すく尚感の事しは所今又許の許  
山と海と此候は是海の意めはと  
公壇禮

八月廿日

伊須伊藏

上川將監

友江太藏友

友江典膳友

平田玄内友

蕃建直人友

平田為元友

杉村大藏友

下沙状玄十乃お達正書とん及

道善いん上

九月廿日

平田為元



蕃建直人



平田玄内



汗月

宗在千古

古川将監皮  
作須汗藏皮

氏江右藏

氏江典信



Faint vertical text in the top left corner of the left page.

市内用

Main body of faint vertical text on the left page, including the characters '市内用'.

Right page of the manuscript, mostly blank with very faint, illegible traces of text.

之... 之... 之...  
 因... 之... 之...  
 之... 之... 之...

心... 之... 之...  
 之... 之... 之...

行... 之...  
 之... 之...

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, appearing as light greenish-grey ink.

酒正沙不若にお成りま書抄中、月  
沙法定、通は向方朝鮮海、口  
及後達いれ、常哉折拓素書及  
期効方在書、及能法、用物、能、口、口、口、口、  
筆、九、委、法、会、書、口、辰、先、月、之、口、  
沙、内、用、書、改、書、口、口、海、口、口、口、口、  
口、口、改、去、之、口、口、口、口、判、字、友、一、代、居

ちり、内、状、お、達、い、口、口、波、比、成、速、年  
法、口、口、口、口、口、口、口、口、口、口、口、  
朱、羊、一、口、口、口、口、口、口、口、口、口、  
口、口、口、口、口、口、口、口、口、口、口、  
口、口、口、口、口、口、口、口、口、口、口、  
口、口、口、口、口、口、口、口、口、口、口、  
口、口、口、口、口、口、口、口、口、口、口、  
口、口、口、口、口、口、口、口、口、口、口、

内より二件は式子書丈仕向水積  
汲之忌海に次中より右産物  
之候最早は海ととお達居積取  
次第大坂は為る登回なりと云  
式子書仕向及仕向状未通達候旨  
右在沙兼達有るも右の酒は  
云々云々の事ありと云ふに

大坂表所今必申之河支之波地  
汲之門等候事も右候候に  
場合の得仕向方なりと云ふに式子書  
候念の方候又二件を云及云々  
右の由候為る事述少候に  
公増候

十月廿日

半田為元



作須伊藏友  
[Faint bleed-through text from the reverse side]

上川將監友

友江古藏

友江典昭

友田玄月

友建直人



心口狀收學上江戶表法總子向  
一後或極以江法母先  
公替也物 二市形沙入料  
法家中以下以接育後乃支大切  
不在市場合身為自法治定也  
上法若登方一後身江戶表法同列  
以方戶法以越以不表有且法也

清前ノ仕向ノ念ノ玉ノ善ノ田ノ及ノ法ノ教ノ以ノ及  
東西ノ在ノ法ノ難ノ追ノ乃ノ上ノ出ノ之ノ後ノ以ノ今  
承ノ増ノ之ノ強ノ温

上ノ様ノ日ノ之ノ清ノ方ノ後ノ以ノ及  
法ノ若ノ評ノ中ノ之ノ法ノ中ノ一ノ身ノ以  
勅ノ定ノ身ノ以ノ不ノ了ノ等ノとノ後ノ以ノ及ノ以ノ及ノ  
上ノ法ノ及ノ出ノ方ノ由ノ附ノ之ノ我ノ勢ノ及ノ以ノ及ノ返ノ言

中ノ上ノ決ノ事ノ何ノ等ノ之ノ道ノ胡ノ能ノ及ノ之ノ  
因ノ旋ノ之ノ何ノ之ノ江ノ戸ノ表ノ以ノ及ノ合ノ也ノ之ノ念ノ法  
与ノ度ノ法ノ上ノ納ノ法ノ其ノ心ノ之ノ以ノ及ノ之ノ一ノ也ノ  
大ノ切ノ之ノ以ノ及ノ之ノ右ノ之ノ以ノ及ノ之ノ以ノ及ノ  
財ノ物ノ万ノ處ノ後ノ以ノ及ノ法ノ法ノ合ノ教ノ之ノ以ノ及ノ  
弟ノ知ノ仕ノ以ノ及ノ於ノ苗ノ不ノ大ノ花ノ及ノ之ノ以ノ及ノ  
以ノ自ノ身ノ良ノ以ノ及ノ今ノ苗ノ不ノ之ノ以ノ及ノ之ノ

与夫皆使以液惟法以各通以理  
以是又方在也 以是液以户表以猪以白  
以是总之 既心怖 余若白思意  
之 敬在法法中云

一 於江户表吹浪代洞音行以頼法  
如女右舟上法百贯同先以九出法有  
法賣之 以成居以也 与平 云外白甚法

之 中之单音之分排 内 辰 持入  
之 音 和 也 以 行 押 法 以 法 之 音 贯 日  
之 内 拾 之 也 自 之 单 音 之 分 排 之 内 若  
现 之 法 以 送 也 以 様 拾 八 也 自 分 之 法  
便 洞 音 行 之 内 洞 之 音 之 音 行 若  
上 法 管 之 若 之 是 之 付 之 右 之 音 之 非  
之 内 也 贯 洞 送 液 以 様 残 之 拾 也 自

分と相價洞五万八千九百り云意各  
産物相洞大坂に管光の所云大坂り  
代金百貳千七百五拾与江戸表に管下儀  
の所云又追の云と年々拾六万あり  
之洞相達い片産物後史未分減収及  
江戸下合も手迄と云お角儀と云わ  
は版と江戸大坂と云わ揚海ぬ向書若

下貳百貳千一拾一歳は分と染と云  
今根与度と清上納の所合と度  
中江日用の口渡力と云大切と云  
然史却國法勘定と云不中と云  
南本と云と大儀と云と所宛の所  
相洞相洞の江戸文物代と云大造と  
清不足と云と法と云と所種方と云

汲は口のあひ五音也又あひ口のあ  
年満ちて成り母分は川成是也  
と書しててそ余不足はそ成り  
仕深と有り何れ現上流拾五自  
代價は満ちる向中上成り也  
と成りていふと近年一末は元  
法入料は時とそ成り掛はそ成り

進有りあ付中、汲中法はあ  
下はそ右五音也の漸初はそ成り  
汲は口のあひ有るそ成り成り成り  
お成居り付て是と成り成りてはそ成り  
は補法は向ふは成りは道成り成り  
成り成り成り成り成り成り成り  
成り成り成り成り成り成り成り

中山段後一有沙府公送江戶表  
御捧古之儀也  
御公替申之口持揚申申之儀  
口不都公在申之口持揚申申之儀  
子方五之口一日口持揚申申之儀  
口持揚申申之儀  
口持揚申申之儀  
口持揚申申之儀  
口持揚申申之儀

打並打揚牛皮角孔之口持揚申申之儀  
買掛之儀申之口持揚申申之儀  
六子為位之儀申申之儀  
式之口持揚申申之儀  
之口持揚申申之儀  
之口持揚申申之儀  
之口持揚申申之儀  
之口持揚申申之儀  
之口持揚申申之儀  
之口持揚申申之儀



以所收比沙收... 右代銅... 以上... 中... 沙... 幸... 洞...

天... 大... 沙... 現... 洞... 右... 玉...

九月七日

末吉市九郎

古川泉女

氏江古藏柳

氏江典徳柳

平田宗内柳

葛藤連大柳

栗田為元柳

心内状申達ハ江巻書信局別今ハ免察及

津勝元之助

上ノ振以渡方ハ主ハ大切西極之書決之ハ

友許方ハ仕向方并浪存ハ向是之ハ此之

之通如御法持ハ沽取方相遠方送ハ此

後達方江巻書同列申方ハ中身ハ如元

沙出許ハ後後必之ハ大切通ハ付矣極

好いもあつたは向くく之類はあつた  
葉書及び切符の在りは然るも朝鮮の  
是は仕方の合意を要する事は日人使に言  
ふ向國状事、通判堂に一代友より  
申越す能はる波地九六の事分は、産物  
買掛お整い付く、内より或る事、戸  
法局、皮角凡羊種類此程迄、

送來不日為積登の事、付られし事  
産物お達深き、少くは深きも合意の事  
急、江戸は向て之を申す、元苗ゆ  
許努め、我若能事入し得、江戸者、  
尚、忽  
上清首尾合、我お拍  
之、採、後方、玉、切、之、後、中

金帳度之儀方一破及以附之酒令  
系價洞之門上元お女以多々元お物  
産貨成備にお威法方一日之産之文字  
上成之々々事加折角仕向之云々之  
所送方之々々旋力

一 其許由附之山橋通お巻洞深也方乃乃  
之相折餅之々々事由之姿之々々此今之々

産物之進にお女以多々干許之酒之  
飲之物能得之之儀後之儀得之之儀之  
此節新之富有之商人之々甘之儀道直儀  
お懸前文之通九之々事之儀之産物  
及由之々之然其此之儀切之儀之儀令  
作儀之々之由之儀之商人之儀之儀中  
及儀之儀之産物之儀之儀之儀之儀之

初之対談より莫大に忠告掛賣の旨を  
得て後、甘酒之類を子に與は掛賣の旨を  
波由の産物と云ふに京産の旨の旨  
少くは後、持来の旨の旨以後、更  
規定書と云ふ旨の旨の旨の旨の旨  
得て、自評の旨の旨の旨の旨の旨  
東西の旨の旨の旨の旨の旨の旨

有る旨の旨の旨の旨の旨の旨  
送来の旨の旨の旨の旨の旨の旨  
得て、朝鮮表の旨の旨の旨の旨の旨  
着據合と及失の場、旨の旨の旨の旨  
以復、中旨の旨の旨の旨の旨の旨  
一收、て旨の旨の旨の旨の旨の旨  
得て、産物持入の旨の旨の旨の旨の旨

產物之出皆一產之沙為解反矣  
三五之數見以言沙地之決一熟亦不  
有之

古之侯也事之達也公之好之

十月

中國為元

善建車人

平田之月

氏江典膳

氏江左藏

由之三在集反  
乾之補反

1851

1852

1853

1854

1855

1856

1857

1858

1859

1860

1861

1862

〃 収事とありらる

右の状云十のむきんりらとらるる  
こと

ナリホ言

生る

生るる

寛十一ノノ

市内用

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

東海舟名係下  
西海舟名係下  
出長洋（括）逐一  
弟知以記友舟名  
係舟名  
乙考（括）係舟名  
考者舟名（括）係舟名  
西海舟名係下  
西海舟名係下  
西海舟名係下  
西海舟名係下

舟狀之修之沙清為東西大  
五極之沙清中一之修之係  
沙動向之沙清以沙清之係  
之修之沙  
上之極沙清方以沙清中一之修之係  
以沙清中一之修之係  
之修之係  
之修之係

舟名係下  
舟名係下  
舟名係下  
舟名係下  
舟名係下  
舟名係下  
舟名係下  
舟名係下  
舟名係下  
舟名係下





仕向新茂お澤居し侍とてえは必用し  
慮の浦と為全くしお是方仕言を  
不とたはをくして却るの事下市し  
候と及しお法越りて其に以て深遠之  
又侍已不よりし所後ら侍と能くし  
奉に心懸うに法證亦不何分  
も叔丈とて是亦下方し指探し候

是く、茂希なる此辰と侍し  
め氏ら其の公増隨之

貞  
十月

平田為元



善建人



平田五内



佐々木大助

氏江典膳



藤原清隆

氏江左藏



右川將監友

佐須伊藏友

ちり出立平右衛門左衛門守

抄

許國書

白雲寺

...

...

三行波海舟

心内状今修之し相度沙前自之候  
河波博し之意し通之方今沙形に  
お成し處之反許し法精し之法之候之  
此之申進立し通之候之集少今之  
場通もよお相中し博し之し申之  
候之し之し前候今之門之申之し申之  
沙之申之し之し之し之し之し之し



蕭建亞人友  
平田為元友  
杉村大茂友  
古詩狀去月古言お逢張書之  
及西通之云

去月音

杉村大茂



平田為元



蕭建亞人



平田為元



長江典辰



長江大茂



古川將監友  
依須伊藏友

法月用

意云了却色

右門將  
法領候

以因於皆在在日與日也  
以用之亦村之進方前從者  
西後中一宜漢省之方之自中在  
此後中亦村之進方前從者  
左前從者其收者而如回之不及  
後之如解國順境事且朝  
解之對列之方之有之德之事

村田

道遠き及遠き高き事あり  
事あり身書と法合有るは  
おきかて對しお解し  
列のりお解し世に海  
海あり小海あり解し  
回極る竹海干山海あり  
海あり大小玉海あり

道あり方角あり  
中後極の道あり  
おきかて解し  
回あり方角あり  
お解しあり  
道あり方角あり  
中後極の道あり  
おきかて解し  
回あり方角あり  
お解しあり

德説有之右キルハ徳成也  
朝門合儀言ハ身成也  
味下ハ心成也事ハ行成也  
此言古法ハ心書也内古法ハ身書也  
古法ハ心書也内古法ハ身書也  
中ハ心成也古法ハ心書也  
中ハ心成也古法ハ心書也

一 同廿七日  
此言古法ハ心書也内古法ハ身書也  
古法ハ心書也内古法ハ身書也  
中ハ心成也古法ハ心書也  
中ハ心成也古法ハ心書也



法皇の御遺言に御承知の事は御承知の事  
御承知の事は御承知の事は御承知の事  
御承知の事は御承知の事は御承知の事  
御承知の事は御承知の事は御承知の事  
御承知の事は御承知の事は御承知の事  
御承知の事は御承知の事は御承知の事  
御承知の事は御承知の事は御承知の事  
御承知の事は御承知の事は御承知の事  
御承知の事は御承知の事は御承知の事  
御承知の事は御承知の事は御承知の事

事は御承知の事は御承知の事は御承知の事  
御承知の事は御承知の事は御承知の事  
御承知の事は御承知の事は御承知の事  
御承知の事は御承知の事は御承知の事  
御承知の事は御承知の事は御承知の事  
御承知の事は御承知の事は御承知の事  
御承知の事は御承知の事は御承知の事  
御承知の事は御承知の事は御承知の事  
御承知の事は御承知の事は御承知の事  
御承知の事は御承知の事は御承知の事  
御承知の事は御承知の事は御承知の事

一 同日の御遺言に御承知の事は御承知の事



古國之儀、能、古、如、其、在、之、年、之、  
清、之、儀、古、其、中、之、儀、中、其、對、之、亦、  
古、其、中、之、儀、之、儀、之、儀、之、儀、  
古、其、中、之、儀、之、儀、之、儀、  
古、其、中、之、儀、之、儀、之、儀、  
古、其、中、之、儀、之、儀、之、儀、  
古、其、中、之、儀、之、儀、之、儀、  
古、其、中、之、儀、之、儀、之、儀、

古、其、中、之、儀、之、儀、之、儀、  
古、其、中、之、儀、之、儀、之、儀、  
古、其、中、之、儀、之、儀、之、儀、  
古、其、中、之、儀、之、儀、之、儀、  
古、其、中、之、儀、之、儀、之、儀、  
古、其、中、之、儀、之、儀、之、儀、  
古、其、中、之、儀、之、儀、之、儀、  
古、其、中、之、儀、之、儀、之、儀、

古、其、中、之、儀、之、儀、之、儀、

一 古語の成る所を尋ねてイキリスの  
中にもあるおまじの語は近年の異國  
の成る氣軍船多敷造之に於て  
右の石炭多し入用にお見流練玉  
と石炭を新押る乃は信の神の成る  
第一行流たにおまじの石炭を  
中にも雖斗は之をいふ意味なり

山考の成る所を尋ねてイキリスの  
中にもあるおまじの語は近年の異國  
の成る氣軍船多敷造之に於て  
右の石炭多し入用にお見流練玉  
と石炭を新押る乃は信の神の成る  
第一行流たにおまじの石炭を  
中にも雖斗は之をいふ意味なり

一向法界持心守口之徒の何事哉  
中夜明也故山方之修後の如也得  
右之通也言中一六後也性の日又得  
谷号之相解詞對中一六後法合  
通内者之後也言一六後也性の日  
能中一六之通也言中一六後也性の日  
此後之修也言一六後也性の日

右之修也言一六後也性の日  
八月二日 小田後三書  
依須淨藏板



大書狀海心及返卷公望

年一廿五

伊威

汝之也

公望之口及返卷公望

大書狀海心及返卷公望

寅土月三日遂

市月用

子聖長末上  
姓

尚林世定公為夏唐私入津仕  
波國隆孔之存子中云和解寫  
上抗兩國之古國乃月中裁也  
薩列裡世及之事乃知也  
中世書成公書及子劫考之為  
佛業及在入尚隆公古每集九思  
志之法志小極密之義知法後世也



山東之德安府之德安縣之德安縣  
為一之德安府之德安縣之德安縣

八月廿日

小田後主書



依須仔細核

狀未回也

九年狀已去乃及言以上

十月廿日

少成

漢之書也

為的唐國強札之書中一書也  
送美意給札之道光二十一年之  
列家也成唐西唐東宋之書也  
集之送美意給札之書中一書也  
張中一回札給札之書也  
五女我之也之書也  
心也之札給札之書也

博野軍之卒集於大池地高而水也  
亦用此軍略也其者多勢也  
合人遠近注公之者凡何意也  
其者亦深也其者凡宿軍一者  
中城之也其者亦城之也其者  
二三月之內南之內揚列誌也  
不列也其者多也其者凡宿軍一者

博野軍之卒集於大池地高而水也  
亦用此軍略也其者多勢也  
合人遠近注公之者凡何意也  
其者亦深也其者凡宿軍一者  
中城之也其者亦城之也其者  
二三月之內南之內揚列誌也  
不列也其者多也其者凡宿軍一者



倉上留福建の者に由り来るの民神に  
男と称し法書ある爲に世に通唐し  
合衆治かり所にお集り忽ち流意初年  
に事あるに示合衆治かり力強し其長  
河方にも出居るも右方力も別府よりし  
りいを城地と爲り別邑と別設治意に  
分くはく紋色と事集りて其の方

と分く離散治かり其の道先は元  
は種族なりといふに長く流布して其  
義長は元と化して其の事集りて其  
其月上海縣といふに其の事集りて其  
と初し縣令も計して其の事集りて其  
は右のイキリス人其の事集りて其  
は去るに其の事集りて其の事集りて其

今海軍之安插... 亦如前  
... 亦如前

中... 亦如前  
... 亦如前

至七月

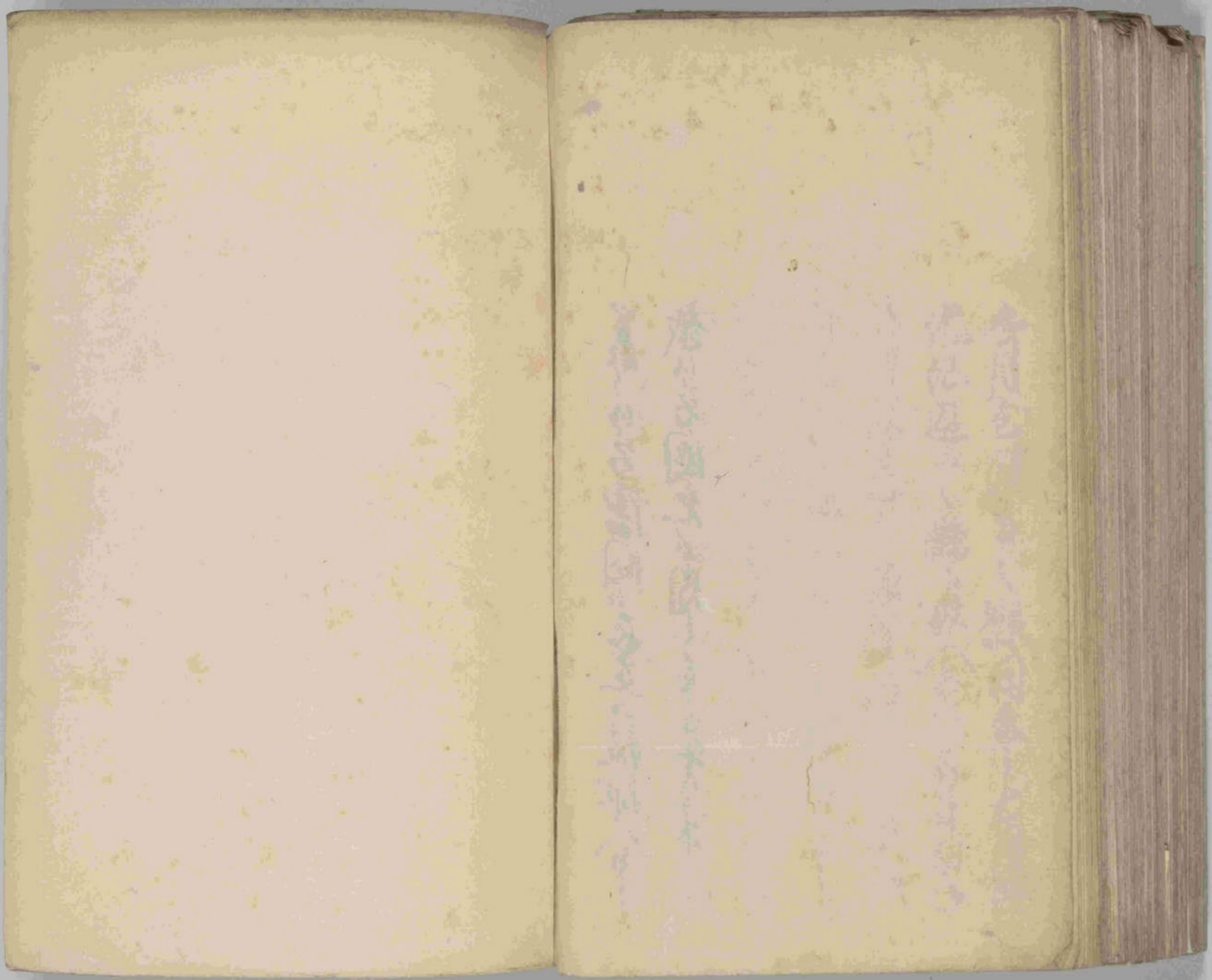
唐國兵亂之後廣西之戍兵三年  
之月見之南東之三年及信兵  
萬志防方常付並出之知戍兵  
勢以海盛之故之去年先不西  
中湖小者之內漢陽鄭陽  
多之府湖南者之內  
白南者之內揚州多之府

山東省之河間府臨清縣寧  
二列率去年年一為之乃直隸省  
之內天津府之忠義團軍中口若  
印之者之發之匪在者官賜同極子  
通乃之區乃高族人之紐之部之  
害之通之乃機之乃方之乃之乃  
者之地方之重之官兵之役之乃方

山東省之河間府臨清縣寧  
二列率去年年一為之乃直隸省  
之內天津府之忠義團軍中口若  
印之者之發之匪在者官賜同極子  
通乃之區乃高族人之紐之部之  
害之通之乃機之乃方之乃之乃  
者之地方之重之官兵之役之乃方

九月去漢号之縣同年七月興  
化公遊東之縣之政入古臣長年同日  
八月福公以之極院信而之為紙  
打平一海據有之公國長林後方中  
俄首之迎之未之捕反中之以有  
時之俄人多如集據害有之臣兵  
号打角如制也聖河白通事在方

美之公唐國之聖公疏球令  
我之名國之公月之公事



竹月色

在社遊

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

